

第6回富田林市観光ビジョン策定委員会

日時	令和元年11月14日 午後2時～
場所	富田林市役所3階 庁議室
委員	出席：和泉会長、赤崎委員、畑中委員、後藤委員、阪口委員、瀬川委員、 柴田委員 欠席：橋川副会長、松井委員
事務局	柳田次長兼課長、武部課長代理、佐々木、菅原

議題1 富田林市観光ビジョン 素案（案）について

<会長>

皆さんこんにちは。限られた時間でございますが、委員皆さまのご協力を得て進めてまいりたいと思いますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

早速、議事に入らせていただきます。まず、議題1ですが、富田林市観光ビジョン 素案（案）について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

●素案（案）のページ割、第1幕 基本理念について説明。

<会長>

ありがとうございました。まず初めに、皆さまにプロジェクターの方で見ていただいたデザインについてですが、どの写真を使うとか、どういうレイアウトにしていこうとか、そのあたりは私が逐一報告を受けるという形で、デザインについては事務局に一任していただく形でよろしいでしょうか。

<委員>

（異議なし）

<会長>

ありがとうございます。ではデザインについては逐一私が報告を受けながら事務局の方で進めていただくということにさせていただきます。

次に理念の部分について、皆さまに思い出していただきたいのですが、前回のこの委員会では、理念の部分以外の内容をご承認いただいているという形になっています。ですので、今回はこの部分と、若干修正した部分につきましてご審議いただくという流れになっています。理念の部分を今から議論していただきたいのですが、理念の部分につきましては、例えば、そこに立ち返ることができるようなものが良いのではないか、いつ何時であつてもそこに原点回帰できるような文章が良いのではないか、南河内エリアのハブであつたり、これから発展していくという意味で飛んでいく、地理的な文言、南河内のど

まんなかという表現であつたりとか、そういう多くのご意見を頂戴しました。いずれにしても、わかりやすくキャッチーで、できるだけ短いものが良いという意見でまとめたのではないかと思います。いろいろなご意見を頂戴しまして、理念の部分につきましては、内容を決めずに、庁内他課の意見の集約も含めて再度事務局へ案の提案をお願いしました。その結果が、今ご覧になられている「基本理念・キャッチフレーズ案」というA4のペーパーになります。ちなみに、前回少し出ました「富んだまち」という表現は以前、お使いになっている部分なのですが、その当時の作成企業との権利関係に抵触するおそれがあるということで、同じものを使うことは不可と事務局より聞いております。いずれにしても、この委員会としてまとめる必要がございますので、事務局からの提案をたたき台として活発なご議論をお願いしたいと思います。なお、事務局から提案があったとおり、私も基本理念とキャッチフレーズの2段構えで構成していきたいと考えております。理念、すなわち、富田林が観光振興の展開により「こうなるべきだ」という根本的な考え方は理念として、また、キャッチフレーズという言葉でここは表現されていますが、他市でよく見かけるのはブランドアイデンティティとか事業コンセプトみたいな名称、単語でもって、そのビジョンが有効な何年間かの中で、「この地域を、富田林をどう売り出していくとか、どう思って欲しいか」とか、原点回歸するような言葉を連ねるというような方針で私自身はこの2段構えというのは良いのではないかと思います。いろいろなご意見があると思いますが、来るたびに発見して住んでも発見ということで、観光そのものはなかなか定住・移住政策とダイレクトに結びつけることは難しいかもしれませんが、間接的にはそういう役割も担うことができようかと思われまし、観光から始まってまちを好きになって住んでいただく。また、まちに住んでいる方にも観光を通じていろいろな方とコミュニケーションをとりながら、さらに、これまで以上に富田林における暮らしを豊かなものにする、楽しいものにする、そういう理念を持つべきではないかと私自身は思います。「来るたび、住んでも」という双方向からの言葉で理念を構成するのも良いのではないかと思ったりしますが、それは私の個人的な意見ですので、委員の皆さまのご意見をまずは頂戴したいと思います。事務局にキャッチフレーズを考えていただきましたが、前回委員の皆さまからこの場で出された意見を参考に踏まえながら考えていただいたものです。どんなご意見でも結構です。いかがでしょうか。

<委員>

これは、飛んでいるとか飛び出すと言った言い回しの言葉が多いと思うのですが、例えばそこに来る人も住んでいる人もみんなで一緒に飛び出そうみたいな。だいたい、観光というと地域づくりと言いますが、やはり住民の方々に一緒に何かを生み出そうという意識付けも必要ではないかと思うので、「飛び出す」というところに「一緒に」というニュアンスが含まれると良いのではないかと思います。

<会長>

順にご意見をお願いします。

<委員>

私も同じような意見でございまして、もちろん住民の方々の意識を変えていくというところも非常に重要になってくると思います。キャッチフレーズを拝見している中では、上から2番目のものがそれに結構当てはまるのではないかと思います。来てもらうだけでなく、現地で迎える人に対してもキャッチフレーズとして響いてくるものが良いのではないかと思います。

<委員>

私はこの富田林というまちの特色といいますか、住んでいる方が自ら自分で発見する、魅力を発見していくというところが魅力的だなと思っておりまして、そこを考えると基本理念の方は「来るたび」と「住んでも」という両方、両面ある、そんな魅力のある富田林というふうに意識されていると良いのではないかと思います。敵対するのではなくて、手を携えて富田林をともに盛り上げていこうよというようなニュアンスが出ると良いなと思います。4つ目の「ひとや想いをつなぐまち」とありますけれども、その人というのを外から来る人と内の人の双方向のニュアンスが出ると良いなと思います。

<委員>

私は基本理念のところとキャッチフレーズのところで2段構えというところは賛成でございまして。その中の理念の部分で「来るたび発見！とんだばやし 住んでも発見！とんだばやし」というところですが、発見をしてもらいたいものというのは最低でも私たちの認識の中で優先順位として「これ発見してもらいたいよね」みたいなところが、何となく、やはりうかがえている状態が良いのかなというふうに思いました。「何かしら発見してください。何かしらって何でしょうね」みたいな状態になってしまうと、この理念としてどうなのかと思ってしまう部分になりますので、こちらの企画側の意図として、「やっぱりここを見つけてほしいですね」というところは優先順位をもって、そこに対してこちらのビジョンが策定されるという形が一番理想かなと思いました。

キャッチフレーズのところですが、どうしてもやっぱり広告業界の観点でお話をするならば、キャッチフレーズ自体をぐっと引きのあるものに変えようと思ったときに、1つコツを申し上げると、具体的な数字を落としていくという方法もあります。例えば、「飛んでいこうよ。とんだばやし。」ってとても良い言葉だなと感じたのですが、その後続くビジョンの話にもつながりますが、「飛んでる5つのストーリー」みたいなことが少しサブタイトル的なものが包括するような意味で入ってくると、「それってどういうことを言いたいのかな」というように興味がまた少し出てくるようなところもあると思います。ただ、これは広告ではありませんので、そこら辺の観点をに入れていくとわかりやすくなるのかなと思いました。

<会長>

ありがとうございます。続いてお願いします。

<委員>

基本理念とキャッチフレーズという２段構えは私も非常に良いのかなと思います。
富田林市内に事業所を構える人たちに「富田林の観光ビジョンについていろいろ聞かれるんやけどどう？」っていう話をしたのですが、意見がなく、「うーん」と言いながら逃げていくことが結構多かったので、住んでる人たちの「住んでも発見」というのはなかなか難しいのかなというふうに思ったところです。非常にいろいろなことで書いていただいている中で、キャッチフレーズにしてもキャッチフレーズの中にもう１つ落とし込みは必要なのかなと思います。ここでは説明として、ガンガン実践していこうという思いを伝えたいと書かれていますが、それがないと「飛んでいこうよ。とんだばやし。」と書かれたところで、どういうふうな内容なのか、なかなかイメージがつきにくいのかなと思いましたので、何か参考にしていただけたらと思います。

<会長>

ありがとうございました。

<委員>

普通、基本理念というのは会社で言えば企業理念なので B to B になり表へは行きません。やはりキャッチフレーズは B to C でコンシューマーに出て行くものなので、普通、企業で作るときは、基本理念というのはインナーキャンペーンでやる「我が社はこうだ」というのが基本理念。それをもとにコンシューマーにアプローチするときにキャッチフレーズが生まれるので、今、そういう表へ出て行かないのであれば、ここはあまり議論を詰めずに、またプロの力を借りた方がいいと思いますので、これでいいと思います。要はベクトルの問題ですから、今ここにいる人間と住んでいる市民の方がだいたい富田林はこういう感じだなとわかればいいのではないかと思いますので、B to B としてはこういう形で作られた方が良くと思います。

<会長>

ありがとうございます。では、基本的に少しずつ確認していきます。まずは２段構えというところでよろしいですか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。では２段構えで展開することにいたします。基本理念につきましては、「来るたび発見！とんだばやし 住んでも発見！とんだばやし」の方に決定させていただきますが、もう少し落とし込んでいんじゃないかというご意見がありましたので、例えば「来るたびに魅力を発見」はいかがでしょうか。

<委員>

特段、文字に落とすのではなく、「何を」というのを認識すれば良いと思います。

<会長>

承知しました。では「来るたび発見！とんだばやし 住んでも発見！とんだばやし」を

基本理念としてよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。キャッチフレーズについてはいろいろなご意見がありましたが、たくさんというか複数あった意見はもう少しわかりやすくというところで、これにサブタイトルを付けるとか、数字を入れるとかそのようなご意見がございました。5つ提示しているうちで、1番目と5番目はどなたも触れておられなかったので、2番目と3番目と4番目でちょっと調整していきたいと思います。

サブタイトルですが、例えば、先ほど委員に挙げていただきました「飛んでる5つのストーリー」などもございましたが、サブタイトルで何か入れ込むとしたら、委員の皆さまは何かご意見ありますか。こういうものをサブタイトルで入れ込んではどうか、また同時に事務局の方にもお伺いしたいのですが、何かこういうものだったら入れることができるのではないのでしょうかみたいなことについて事務局からも意見を頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

富田林にしかないもので、衣・食・住・風景・歴史など、いくつか端的に入れた方が良いでしょう。それを細かく言うとどんどん文章が盛り込まれて長くなってしまうので、その辺を端的に拾い上げていくのが良いと思います。

<事務局>

5つのストーリーというのは、やっぱり5つの基本方針に出しており、これはまさにその言葉のとおり基本方針が本市の事情なので良いかと思います。

<会長>

事務局の方から、そのような「飛んでる5つのストーリー」というのは整合性がとれるという話でしたが、委員の皆さまはいかがですか。

<委員>

すみません。基本理念として「来るたび発見」ということで発見してほしい、発見したいという理念だと思うんですが、それと「飛んでいく」というのがつながらないというか、発見するものがあるというのと、飛んで行ってどこに行くのとか、目的語みたいなものが明確になったら良いかなと思っていますが「とんでるまち」とか「とんでいく」というのは、富田林にひっかけたということですか。

<会長>

そうですね。

<委員>

発見することと、飛んでいくことを何か関連させられる、結び付けるような言葉がほしいなと思いました。

<会長>

サブタイトルを付けることに関しては皆さん、抵抗ございませんか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

もっと短い方がいいですか。何とか本日この委員会の中でここを修正したいなと思っておりますので、ご協力いただきたいところでございます。

<委員>

技術的なことで言いますと今おっしゃったように「とんでるまち」というのは非常に抽象的だと思います。何となく「富」と「富田」が引っかかっていると「富」はポジティブな言葉なので、それを具体化していくのであれば、キャッチは短い文でアイキャッチです。キャッチにして、あとはボディコピーというところであれば、富に引っかけて、例えば「おいしさの富」「富のあるおいしさ」「富のある風景」「富のある文化」、分解していくと「富」はこういうことを言っているんだとなります。コミュニケーションの第2段階で、ある程度そこを分解して、キャッチを活かすために富を引っかけることになり、そうすると見たときにこれが富なんだとなります。「飛んでる」はちょっと意味が変わってしまうので、やっぱり「富」を使うべきだと思います。

<会長>

ありがとうございます。とても参考になるご意見です。

<委員>

これは本当に難しいところですね。そこは先ほども言ったようにB to Bの部分だけきちっと決めて、ベクトルなんで、この部分はある程度妥協をしておかないと前には進まないのではないかと思います。

<会長>

ありがとうございます。そのとおりです。では、まとめさせていただきます。flyの「飛ぶ」は意味がかわってしまうというところと、そちらを使うと基本理念との整合性もなかなか合わないのではないかとのご意見もございました。「飛ぶ」はなくて富田林の「富む」ですよね。そのまま「富む」というところを使って、それに食とか歴史とか文化をプラスアルファしていき、「来るたび発見！とんだばやし 住んでも発見！とんだばやし」。何を発見するんだというところで「富む」豊かな食とか豊かな歴史とか、そのような流れで考えていくということでご同意いただけますでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。

<委員>

即物的に言えば食べるとか風景とか、もちろんそうですが、そこには人の気持ちや時間などがあり、時間だけはみんな平等なものですので、来る人が幸せになる「富のある時間」と言うのとキャッチコピーみたいになると思いますので、私が一度考えてみます。

<会長>

ありがとうございます。では最後、少し確認します。基本理念につきましては「来るたび発見！とんだばやし 住んでも発見！とんだばやし」に決定。キャッチフレーズについては、今、話の中で確認したような方向性の中で、委員にご検討いただけるということで、その案を事務局からメールで流させていただいて、同意の返信をいただいて、それでご同意いただくという形でよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。続きまして、素案全体について事務局より説明をお願いします。

<事務局>

●素案全体について説明

・修正点

①第1幕、SDGsに関する項目を追加

②第4幕、成果指標をすべて27ページに配置し、戦略ごとに、アクションプランを通じてめざすこととして表記

③その他文言修正

<会長>

ありがとうございます。素案については、前回の委員会ですでに事務局案をご承認いただいております。今回お諮りしたいのは修正した部分についてでございます。

SDGsの記述であったり、成果指標であったり、それから戦略ごとにアクションプランを通じてめざすことを記載するような修正を行ったとのこと。SDGsにつきましては、全くなかったものを追加されているところですが、他につきましては、議論のあったものを、概して、見やすく、理解しやすく修正されています。SDGsにつきましては、観光振興のあり方を定めるにあたって、そちら（SDGs）との整合性を図りたいというお考えでございますので、特に、記載してはいけないというような、反論する理由は見当たらないと私自身考えております。いかがでしょうか。事務局の提案のとおりでよろしいですか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。では、ご承認いただいたということで、ただ今のキャッチフレ

ーズの部分は、メールでの処理となりますが、その他につきましてすべて議論が終わったわけでございます。富田林市観光ビジョンの素案、これをもって素案として確定させていただいてもよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。

少しだけ、今後の将来的な見通しも絡めて申し上げますと、素案の案ができたということで、ここから、パブリックコメントを頂戴して、最終的にまたその（パブリックコメントを頂戴した）あたりで修正があるかもしれませんが、最終的な委員会でパブリックコメントを踏まえたプランが出てまいります。その委員会をもって最終確定していくことになりますが、まずは素案の案が本日成立するということで、ご理解を頂戴してよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。

議題２ ワークショップの実施結果報告について

<会長>

ワークショップの報告ということで、事務局からお願いします。

<事務局>

●ワークショップについて「富田林市ワークショップ実施結果報告」に基づき説明
実施概要：10/30（水）

阪南大学国際観光学部学生、市内事業者・団体、富田林市
実施プログラム：

①富田林市観光ビジョンについて説明

②学生からの発表（３グループ）：富田林の魅力の伝え方

チーム１：大人に向けた上品な新しいお土産の提案

（ツツジ、海老芋、さしみ卵等を使ったお土産のご提案）

チーム２：富田林市と若者の懸け橋となるイベントの提案

（ワンスプーン、一口ビュッフェ形式等）

チーム３：新しい楽しみ方の提案

（まち歩きツアー、すごろくマップ等）

・市内事業者・団体によるフィードバックカードの記入

③意見交換会（４グループ）：学生と事業者・団体を交えグループで議論

・参加しての感想：再発見があったことを体感いただいた。

和泉会長の方でも大学のホームページで紹介していただいているとのこと、資料を付けていただいておりますので、あわせてご覧いただければと思います。報告は以上です。

<会長>

ありがとうございました。ご説明のとおり、10月30日に本学の学生が参加させていただきました。その中で、ただ勉強しただけでなく、後日参加された事業者さまから直接私にメールをいただいて、「一緒に何かしたい」というようなご意見もいただいておりますので、私自身も学生と一緒に何か実践していこうと思います。せっかくビジョンを作りますので、そのビジョンをベースにしていろいろな展開が当然なされると思いますが、私と学生の活動でございますので成果は乏しいかもしれませんが、少しでも富田林市の皆さんのお役に立てるような、また、私たちも勉強させていただけるような、実践的な取り組みをもってつながってまいりたいと考えておりますので、委員の皆さまにおかれましても、いろいろとご協力等よろしくお願いいたします。

これに関しまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

<委員>

（ご意見ご質問等なし）

<会長>

ありがとうございました。

議題３ 富田林市観光ビジョン 概要版について

<会長>

ビジョンの概要版について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

●富田林市観光ビジョン 概要版について説明

概要版は、ただ本編を要約しただけのものではなく、本編を手にとらない方や子どもたちにもわかりやすいものにしたいとの思いで検討しております。本編の内容をよりわかりやすく、読み仮名を付けるなどの工夫を施したいと考えております。本日お配りしました資料をもとに作成を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。概要版につきましては、現在作成を進めていただいております。初めの方の委員会だったかと思いますが、とにかく見ていただける内容にしたいと、その方向性をもって今取り組みを進めていただいております。概要版につきまして、内容

が根本的に変わってしまう、変化するわけではございませんので、デザインも含め、本編のデザインと同様、私の方で逐一報告を受けて、私が意見をするという条件で、概要版の作成につきましては事務局に一任という形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。ではそのように進めさせていただきます。

議題 4 その他

<会長>

続きまして、議題の4（その他）でございますが、事務局から何かございますか。

<事務局>

今後の予定でございますが、今回策定委員会で確定いたしました素案にて、1月頃にパブリックコメントの実施を予定しています。次回の策定委員会は2月の中旬頃を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。改めて日程は調整させていただきます。

<会長>

ありがとうございます。その他本日の議事全体につきまして、ご意見ご質問等ございませんか。よろしいでしょうか。

たくさんのご意見ありがとうございました。皆さまのご協力により、審議を終了することができました。それでは、以上をもちまして議事を終了させていただきます。事務局よろしくお願いします。

<事務局>

会長ありがとうございました。委員の皆さまにおかれましてはお忙しいところご出席いただきまして、また多くの貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえ、関係部局と調整のうえ、観光ビジョンの策定に活かしてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。